# 平成 24 年度　事務事業事後評価調書（平成　23　年度事業）

| 整理番号 | 11 | ー | 7 |
|---|---|---|---|

## 1　事務事業の表示

※ ■ ： 該当

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 事務事業名 | 雄武町特別支援教育推進事業 | | | | | |
| 評価者 | 担当課名 | | 教育振興課 | 担当係名 | | 教育総務係 |
| | 管理職 | 職名 | 課長 | 作成者 | 職名 | 係長 |
| | | 氏名 | 横田和幸 | | 氏名 | 大和良成 |
| 事業の概要 | 学校教育法の特別支援教育の対応として、町内小中学校に在籍する、いわゆる「困り感」をもった児童生徒の学習活動をサポートするため特別支援教育支援員を配置する。 | | | 全体計画 | /期間限定複数年度 | |
| | | | | （平成 22 年度～ 24 年度） | | |
| | | | | 事業費 | 国・道支出 | 千円 |
| | | | | | 地方債 | 千円 |
| | | | | | その他 | 千円 |
| | | | | | 一般財源 | 12,000 千円 |
| | | | | | 事業費計 | 12,000 千円 |
| 実施方法 | ■ 直営 | | 民間委託 | | その他（　　） | |
| 第５期総合計画（前期） | ■ 登載事業 | | 非登載事業 | 優先度 | A | |
| 事業の位置付け | 政策目標 | 3 | のびやか・雄武～教育・文化の振興～ | | | |
| | 基本施策 | # | 学校教育の充実 | | | |
| | 単位施策 | 1 | 小中学校の教育内容の充実 | | | |
| | 事務事業の種類 | ■ | 自治事務 | | 法定受託事務 | |
| | その他計画・根拠等 | | | | | |

| 事業費 | 実施年度 | 20年度（実績） | 21年度（実績） | 22年度(実績) | 23年度(実績) | 24年度(見込) |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 国・道支出金 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | 地方債 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 | 千円 |
| | その他財源 | 千円 | 千円 | 18 千円 | 19 千円 | 18 千円 |
| | 雄武町負担額（一般財源） | 千円 | 千円 | 3,675 千円 | 3,643 千円 | 3,685 千円 |
| | 合計 | 千円 | 千円 | 3,693 千円 | 3,662 千円 | 3,703 千円 |

## 2　事務事業の目的・内容（Plan・Do）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 【誰、何が（対象）】 | 児童・生徒・教職員 | 望ましい指標（目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標） | | |
| 【抱える課題やニーズは】 | 現状の学校体制では、「困り感」をもつ児童生徒への学習支援に支障をきたしている状況がある。 | 特別支援教育支援員配置数 | | |
| | | 指標（指標計算式／解説） | 目標値及び実績値 | |
| 【どのような状態になることを目指したのか（意図）】 | 町において特別支援教育支援員を確保し、要望のある学校に配置 | ① 特別支援教育支援員配置数 | 目標年度 | 平成23年度 |
| | | | 目標値 | 2 名 |
| | | | 実績値 | 1 名 |
| | | | 達成度 | 50.0 % |
| 【その結果、どのような成果を実現したいか】※成果＝目的 | 「困り感」をもつ児童生徒の学力向上及び授業展開の円滑化 | ② | 目標年度 | |
| | | | 目標値 | |
| | | | 実績値 | |
| | | | 達成度 | % |

| 内容（どのような手段で何を行ったか） | |
|---|---|
| 人選及び配置 | 教員免許を有する者1名を特別支援教育支援員として任用し、2校に配置した。 |
| | |
| | |

## 3　事務事業の評価（Check）

（1）事務事業の必要性（町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか。当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性）

| | | |
|---|---|---|
| **必要**<br>必要／概ね必要／課題あり | ■ 義務的なもの<br>□ 全部<br>■ 一部 | 学校教育法改正により、いわゆる「困り感」をもつ児童生徒に対して、学校設置者がその困難を克服するための教育を行うことが位置付けられているため、支援体制整備は必要である。 |

(2)事務事業の有効性（期待する効果が得られたか）

| | | |
|---|---|---|
| **有効**<br>有効／概ね有効／課題あり | 設定した目標値の達成状況<br>■ 達成<br>□ ほぼ達成<br>□ 下回る | 各校の計画に基づく適正配置により、効果的に学習サポートが行えており、授業が円滑に行われている。 |

(3)事務事業の効率性（コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか）

| | | |
|---|---|---|
| **効率的**<br>効率的／概ね効率的／課題あり | 判断の理由<br>□ 事業費抑制<br>□ 人員削減<br>■ 時間短縮・作業軽減<br>□ その他 | 特別支援教育支援員の学習サポートにより、スムーズな授業展開が可能となり、ティームティーチング教員配置教科等では当該教員が本来の役割を担うことができている。 |

(4)事務事業の公平性

| | | |
|---|---|---|
| **公平**<br>公平／概ね公平／公平でない | 判断の理由<br>□ 受益者負担がある<br>□ 受益者負担がない<br>□ 受益が一部に偏る<br>■ その他 | 児童生徒の学力状況に見合った教育環境が整えられることから公平性が確保されている。 |

## 4　総合評価【A～D】

A：計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当　等
B：ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要　等
C：当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要　等
D：事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要　等

| 自己評価（一次評価） | 評価会議評価（二次評価） | 町長評価（三次評価） |
|---|---|---|
| A | | |
| 2名配置を目標値としていたが、現時点においては、必要とされる2校に対して1名を兼任させることで効果を得ていることから、目的は達成されている。 | | |

**今後の展開方向**
（Action）

| | | |
|---|---|---|
| **継続／現状維持** | | |
| 今後も「困り感」をもつ児童生徒の学習サポートは必要であり、変化するニーズに合わせて配置人数や配置方法を検討し、適正な配置を行うことが重要であるため、事業の継続が必要である。 | | |

＊展開方向の区分
○ 継続／現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更　○ 終了　○ 休止　○ 廃止

## 5　その他特記事項（アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入）